

働き方自分らしく

県内・精神障害者雇用

民間参入仕事の幅拡大

精神障害のある人が自分らしく働ける場が県内で広がっている。通常の職場に就くことが難しい人に働く機会を提供する「就労継続支援A型事業所」に民間企業の参入が相次ぎ、仕事の選択肢が増えているためだ。清掃や郵便物の発送といった簡単な作業から「コンピューターソフトの開

発まで、一人一人の体調や技能に合った業務を用意し、自立をサポートしている。ただ、事業所は富山、高岡両市に集中しており、サービスの地域格差が課題になっている。

(社会部・浜田泰輔)

A型事業所は、障害者総合

支援法に基づく就労支援施設の一つ。障害者と施設が雇用契約を結ぶのが特徴で、最低賃金が保障される。社会福祉法人などが運営するケースが多いが、普及を目指す国の助成金が増加。13年12月時点で県内にある25事業所のうち、16事業所は株式会社か合同会社となっている。業務内容は施設によって違いますが、障害者の能力を最大限に生かそうとしている点では共通す

る。

高岡市大野に2月にオープンした「Aim(エイム)」は、体調に応じて利用者が職場を選べるようにしている。協力企業から金属部品の塗装業務を請け負っており、施設内での作業を基本としながら、回復に合わせて協力企業の工場でも働けるようサポートする。今後は清掃や農作業、飲食店経営も手掛ける計画で、浅井千春社長は「精神障害者の場合、体調が良い時の能力は健常者と変わらない。

一人一人の「働きたい」という思いに添った仕事を提案していきたい」と語る。

富山市四ツ葉町の「オレンジワークス」は、アクセサリ作りや郵便物の発送からウェブページの作成まで幅広い事業を展開する。利用者が作ったアクセサリを、別の利用者がネット上で販売するなどメンバー間で新たなビジネスも生まれている。

「ASTANT(アスタント)」のスキルアップを目指している。IT業務に特化。他社から受注したデータ入力やウェブページの制作などを通じてパソコンの技術を身に付けてもらい、自分でコンピューターのソフトが開発できるまで

年度の県内の就職件数は398件と、08年度の99件から約4倍に伸びた。一方で、課題も残る。県内25事業所を所在地別で見ると富山市が15施設、高岡市が6施設、氷見、小矢部、上市、入善の市町が各1施設と偏在している。特に県東部では少なく、長時間かけて通勤している利用者が多い。また、各事業所の業務内容を一括して紹介する窓口もない。オレンジワークスの金子達也社長は「利用者が最も適した施設を選べるよう相談支援を充実させていきたい」としている。



金属部品の塗装の下処理をする障害者。高岡市大野

同市湊入船町の